共に未来を創る！ 揖斐川中の「いび創（そう）」な挑戦 揖斐川町立揖斐川中学校

揖斐川中学校では、今年度から学校教育目標を「共に自立をめざす」に刷新し、日々教育活動に取り組んでいます。激しく変化する社会の中で、子どもたちがよりよく生き抜いていくために、「自立への一歩」を仲間、教師、家庭そして地域と共に育む学校にしたい。この目標には、そんな強い思いが込められています。

本校では「難しい壁にぶつかったときにもあきらめずに粘り強く考え、仲間と共に行動できる人になってほしい」そんな願いを込めて、授業の中に子どもたちが自ら問いを見付けて解決していく「探究的な学び」を取り入れています。

その中心となるのが、総合的な学習の時間、「いび未来創造科」通称「いび創（いびそう）」です。「地域の一員として、揖斐川町の未来を自分たちの手で創っていきたい！」という思いを込めて、昨年度の3年生が提案し、全校投票で決まった名前です。今年度は、さらに地域とのつながりを深めながら活動を進めています。町に暮らす一人一人として「自分に何ができるだろう?」を考え、試行錯誤しながら実践する姿こそが、子どもたちの確かな学びにつながっています。

昨年度は、2年生の職場体験学習をきっかけに、「お世話になった事業所の方々のために、自分たちにできることはないか」と知恵を絞り、実際にプロジェクトを形にしました。仲間とぶつかり合い、よりよい方法を何度も話し合いながら実践した経験は、生徒たちを大きく成長させてくれました。

そして今年度も「いび創」が本格的に動き出しています。

- ◆1年生は「揖斐川町の魅力を多くの人に伝える活動」
- ◆2年生は「町で働く方々と一緒に課題を解決するプロジェクト」
- ◆3年生は「これからの揖斐川町の未来を描く活動」

すぐに答えが出ない問いに対して、汗をかきながら粘り強く挑む子どもたち。地域の温かい見守りと支えをいただきながら、私たち教職員も子どもたちと一緒に一歩一歩歩んでまいります。

【追伸】本校では生徒たちと共に町の未来を熱く考えようとされる皆さんを募集しています。興味のある方は、ご連絡をお待ちしております。

「好きを育み、得意を伸ばす」場の提供 揖斐川町立北和中学校

学校運営協議会制度がスタートし、昨年度は、どんな子どもを育てるのかという目標を地域と学校とで共有しました。しかし、本校の学校運営協議会は、広範囲で構成されることなどから、今年度は助走期間と捉え、やってみたからこそ生まれる課題を修正し、来年度に備えることとしました。実情に合わせて、無理なく持続可能な範囲で実践できる動きを次のとおり設定しました。地域の皆さまにも今後の方向性について、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

1「地域」と「学校」の共通目標

「どんな子どもを育てたいか?」＝「どんな地域で暮らしたいか?」

- ◆地域に関心をもち、積極的に地域行事に参加する子ども
- ◆先輩を尊敬し、後輩をいたわり、家族を大切にする思いやりのある子ども
- ◆目標をもち、リーダー性をもって主体的に動く子ども
- ◆学校でも地域でも、顔を見たら挨拶ができる子ども
- ◆自分のことばかりではなく、相手を気遣い、規則を守る子ども

2「地域とともに動く」中学生を目指す

挑戦したいことは、「地域生徒会」の発足です。校区内にある5つの公民館活動を盛り上げるため、大和・北方・久瀬・藤橋・坂内のそれぞれで「地域生徒会」を立ち上げます。

公民館からのボランティアに受け身で参加するのではなく、「こんなことをしてみたい！」といった地域を盛り上げるためのアイデアを地域生徒会メンバーで練り合い、各公民館の活動推進委員さんと連携しながら中学生にできることを実現していくという動きを目指しています。

活動後には、活動の様子や気付きを校内外に紹介し、自分たちの地域を誇りに思い、地域に貢献できる機会を創り出したいと考えており、中学校と地域との強いつながりを生み出していくことに挑戦していく所存です。温かい応援をよろしくお願いします。

「学校教育の在り方審議会・シンポジウムinいびがわ」（2）
～まちの未来をひらく子どもたちが育つ学校をみんなで創る～

今号では、シンポジウム（8月22日）に参加された皆さんからのご意見を紹介します。寄せていただいたさまざまな考え方を今後の審議に活かしていきます。

・小中学校の統合は、子どもたちの人数を考えると必要かなと思います。中でも、地域の人との関わりを置き去りにしてはいけないし、より強くしていく必要があると思います。また、一人一人の心を育てていくことが一番大切だと思うので、どんな人でも受け入れてくれる学校をつくることが大切だと思いました。子どもたちが将来、都会へ行っても、心の中には揖斐川町のことを忘れずにいてくれるといいです。

（50代女性・揖斐小校区）

・小中学校時代を思い返してみると、総合的な学習の時間に薬草や毒草を調べたことがあります。私たち自身で調べたいと言って、自発的にできたことがうれしくて、楽しかったことをよく覚えています。また、（小中併設のため）中学校では、必ず誰かが役員をやらなければいけない状況でしたが、責任感が身に付き、小1から中3までが分かるように工夫することの大切さも学びました。同級生は6人でしたが、一人一人が役割を担って行動したことで、けんかはもちろんありましたが、少人数だからといってできないことはあまりなかったように思います。

（30代女性・大和小校区）

・色々な学校の見学をされてきた報告を聞く事ができてよかったです。それらの良い点、デメリットもよく考えて新しい学校の在り方が生まれそうな希望が見えました。住民として手伝えることがあれば手伝いたいです。

（70代女性・北方小校区）

・基調講話の中で次期学習指導要領の方向性、キーワードが「好きを育み得意を伸ばす」とのこと。とても分かりやすく、そのあとに説明いただいた改革とも結び付き、よく理解できました。揖斐川町の地域性を活かすとともに、デジタル化に対応する教育につながるとよいと思います。幼児園と義務教育学校、更には高等学校を巻き込んだ取組ができればと考えます。

（70代男性・清水小校区）

・文部科学省の考えや現状、今後の課題が端的に分かり、小中学校だけの問題ではなく、今後、子どもをどう育てていくか、どんな力が必要なのかとあらためて考えさせられ、そのヒントももらえたと思いました。また、シンポジウムの内容も短い時間ながらも濃い内容だったと思うし、会場の方たちの切実な思いや意見も聞けて、重大な方向転換、決定が求められているのだから、限られた時間の中でもしっかりと考えていかなければいけないと、重く感じることが出来ました。参加してよかったです。ありがとうございました。

（50代女性・小島小校区）

・高校生が発言できる機会があり、とてもよいと思いました。「非認知能力」の中には、人間関係づくり、コミュニケーション力等もあると思います。学校づくりの土台は、「非認知能力」になると思います。つまり、学級経営の充実だと考えています。その土台の上に学力の向上、探究活動があると思います。義務教育学校では、異学年による活動づくり、交流の幅を広げることができます。特に「多様性の包摂」につながるものと思います。学校統合に向けての壁は多くありますが、子どもファーストで考えて、スムーズな統合ができたらと思います。新しい学校が人口増につながるとよいと思います。

（60代男性・谷汲小校区）

・揖斐川町の学校教育を現場だけに任せるのではなく、町民一人一人が考え、アイデアを出して、よりよい方向にしていくことはとても重要なことだと感じました。今後も揖斐川町の学校教育をみんなで考えるシンポジウムはとても重要なことです。よってこのような活動を継続していただけるとありがたいです。

（70代男性・養基小校区）

・「探究いびがわ」、多文化分教室、「学び舎ＩＢＩＧＡＷＡ」、夜間中学等、かなり具体的なイメージがなされていることに驚きました。他地区の合併や義務教育学校化等の考え方とは一線を画している感じがして楽しみに思う反面、学校教育の分野だけではない町としての冷静な見極めや判断も大切になってくると感じました。

（50代男性・町外）

・未来について考えることは、不安なところももちろんありますが、夢を語る、希望をもてるワクワクすることだと思います。子どもたちの考え、高校生、大学生の考え、10代、30代、40代、50代、60代、70代それぞれの考えを踏まえ、合意形成を図っていきたいものです。

（50代男性・町外）

（学校教育の在り方審議会ＨＰ）